

大峰山脈 山上ヶ岳

2013年1月2日(水)～3(木)

リーダー：和利(記) メンバー：やまたくお

1月2日(水) 曇り時々晴れ

奈良県吉野郡天川村洞川(どろかわ)にAM3:30ごろ到着、国道脇の駐車場にて仮眠。
8時過ぎに洞川温泉駐車場に移動して出発。雪で白くなった温泉街を抜け、清浄大橋から入山。

洞川温泉と山上ヶ岳との標高差は約900m、竜頭山より少ない。
登山道は最初から雪が凍り付き、滑って歩きにくい。
標高を上げるにつれ雪が増え、奥駈け道に合流する洞辻茶屋(1500m)付近で30cm程度。

地元洞川の人たち10人程度が長靴履きで下りてきた。口々に「ようまいり」の挨拶。

この挨拶と登山道脇の石塔、仏像の数々にやまたくおはただ事ではない顔をしていた。

(1/2は大峯山寺で新年の行事があるとのこと。下山後確認)

山頂直下の鐘掛岩(20mぐらいの鎖場の修験場)は冬期閉鎖。迂回の階段を延々と上る。

西ノ覗き岩(修験者がロープで体を縛り身を乗り出して修行する場)からは、目の前の稲村ヶ岳と遙か向こうに目的地の弥山が望めた。この時期に晴れることは珍しいと地元登山者が教えてくれた。

左手に雪を被った壮大な宿坊群を見て、雪で平になった最後の石段を登って大峰山上権現(山上ヶ岳)に到着。
本堂は冬期閉鎖中で大きな錠がおろされていた。登山者は我々の他にカメラを抱えた三名のみ。

この時点で約5時間経過、夏道の経過時間の1.5倍要している。ここからは、踏み跡が皆無に等しい。
登山道は概ね稜線を通っているが、ところどころで小ピークを巻いていて、そのトラバースがいやらしい。
南北アルプスと違って、雪に水分が多いため木々のすべてが霧氷と化していて美しい。

キャンプ地の小笹の宿には、山上ヶ岳から1.5時間ほどで到着。小屋には入らずに整地して幕営。
水音を確認して沢から採水。この時期に沢水が取れるのはありがたい。19時前に就寝。

頭上の木々はゴーゴーと音を立て、テントにさらさらと雪があたっている。
テン場は窪地のため、風があたりずに快適であった。

1月3日(木) 雪のち晴れ

テントの周りは踏み跡が隠れるほどの雪が積もっている。一晩中ゴーゴー音を立てていたにしては積雪は少ない。
チーズ雑炊を食べて支度を調えていると、カメラマン三人組の一人が「今日はどうされますか」と訪ねてきた。
彼らはこれ以上進むと戻れなくなりそうなため下山するとのこと。
私もこれ以上は進めないと判断し「戻ります」と即答した。

上空は相変わらずゴーゴーとうなっている。テント場から外へ出ると踏み跡は完全に消え、林の中のルートは登山道がわからない。ラッセルするほどの積雪ではないのが救いであるが、横風と降雪で顔が切れるように痛い。
尾根上のルートのため、尾根の反対側へ出ると風がなくホットする。ピークのトラバースは昨日より分かりにくく、新雪が流れて足下が不安定である。ビッケルで確保して慎重に通過する。

洞辻茶屋にて今朝入山した2パーティ5人と遭遇。積雪と気象状況を伝える。ここまで来ると風はなく、先程までの強風はうそのようである。後は一気に下るのみ。

清浄大橋登山口からは凍った路面をおっかなびっくり慎重に進み、母公堂で一本。
ドラム缶焚き火で暖を取っていた管理人のおじさんから、ぜんざいとお茶を御馳走になり凍えた身体が生き返った。
洞川の温泉街で食事を取ろうと食堂を探したが皆閉じていた。「陀羅尼助」という民間薬(胃腸薬)の売店ばかりがやたらと目についた。そのまま洞川温泉駐車場まで歩き、温泉に浸かって正月山行は終了した・・・

はずであるが、温泉から車に戻ってびっくり。右後輪がパンクしていた。
寒風の中、ジャッキアップしてタイヤ交換。身体は温泉に入る前の状態に戻ってしまった。
とりあえず帰路に積雪のないことを祈って出発した。

山上ヶ岳のピークハント山行となってしまったが、積雪期の大峰山脈の一端に触れることができ、新たな闘志がわいてきた。次は雪の弥山と八経ヶ岳を目指したい。

<タイム>

1/2

洞川温泉駐車場(8:40)ー清浄大橋登山口(11:00)ー洞辻茶屋(12:30)ー大峰山上権現(山上ヶ岳)(14:00)
小笹の宿キャンプ地(15:40)

1/3

小笹の宿キャンプ地(6:45)ー大峰山上権現(山上ヶ岳)(8:00)ー清浄大橋登山口(11:30)ー洞川温泉駐車場(13:35)

以上